

環境と健康

地域活動支援センター 平成27年度事業概要

人材養成研修と組織力診断 中堅推進委員育成事業スタート



専門研修「広報・ツールづくりコース」で発信力を強化(上)、新規推進員養成研修(下)



地域活動支援センター！脱温暖化センターひろしまは、環境協の公益事業部門として、公衆衛生推進協議会(以下、公

域活動支援センター)と連携し、地球温暖化対策地域協議会と連携して、地域学習会と省エネ実践活動の強化を図るとともに、

①公衆衛生活動の支援
人材養成研修(基礎研修と専門研修)および健康づくりメニューの充実を図るほか、「ヒト」「モノ」「カネ」の視点で公衛協の現状を把握する「組織力診断」の実施を通じて、公衛協活動の活性化に取り組めます。

②地球温暖化対策の活動支援
地球温暖化防止活動推進員の養成・育成に取り組めます。

③地域活動支援センターの機能強化
関係団体の活動実績の収集と発信に努め、情報の共有活用を促進し、部門間および外部団体との連携強化を図ります。

例年、県下の公衛協関係者が一堂に会し、情報交換などを行う場として開催している「第54回環境保健夏季大会」を7月9日～10日(泊二日)に、「第56回広島県公衆衛生大会」を12月10日にサンスタールーム(坂町)で開催予定です。(各種の研修会・会議の日程は6面参照)

人材育成事業では、これまで実施してきた「市

公衛協のPRや情報交流のきっかけとなるよう、市町公衛協会長に『わがまち』で力を入れている取り組みやその成果についてインタビューし、県内26公衛協の魅力をお伝えします。

我がまちの公衛協①



所 属：庄原市公衛協
お名前：宮本 英暉
公衛協歴：15年目
会 長 歴：11年目
世 帯 数：15,146世帯※
推進委員数：340人※
※平成26年度調べ

とにかく、さまざまな広報媒体で呼びかけ、意識づけを行いました。

『率先・垂範』で理解・協力

エチケット袋でごみ減量

Q1 力を入れている活動

不法投棄対策と「3R」の効果的な推進に力を入れています。

不法投棄対策では、地域ごとに不法投棄パトロールを行ったり、『庄原よいと祭り』や『庄原夏祭り花火大会』にブース出展し、不法投棄防止の意識啓発をしています。また、これらのイベントでは、エコスポットでのごみの分別指導やエチケット袋を配布して行う「祭りのごみ持ち帰り運動」を展開しています。

Q2 活動成果

花火大会を例に出すと、当初は、2トントラック5台分のごみが排出されていましたが、現在では1台分にまで減っています。市外からもたくさんの方に来ていただくなかで、繰り返し呼びかけした成果が出ていると感じています。

Q3 苦勞した点と解決策

「捨てる人」と「きれいにする人」のいちごっこが課題です。ポイ捨てや3Rについて、意識改革から行動に移してもらうまで苦勞しました。

なかでも、他団体との協働事業は、呼びかけが届く年齢層やチャンネルが広がり、効果があったと実感しています。

Q4 会長のモットー

『率先・垂範』です。自身が先ずやってみせることで、役員も一緒に行動できます。公衛協が率先・垂範することで住民活動として伝わり、理解・協力が得られます。

これからも、率先・垂範で地域住民に理解・協力を得られるよう、取り組みを展開してまいります。

(地域活動支援センター)

きんせんか 琴線歌

人間にとって一番望ましいのは健康長寿だ。寿命杯元気で楽しくである。早期発見・早期治療という言葉があるが、更に望ましいのは病気になる前に「公衛協中堅推進委員育成事業」を展開します。

また、今年度で7年目となり、公衛協の代名詞的な事業になっている「環境啓発ポスター・標語コンクール」環境と健康の「ミニミニ活動助成事業」は、申請書の提出締め切りが5月29日となっています。特に「ミニミニ活動助成事業」は、助成額上限50万円の「広域型」の助成対象が市町レベルから支部・地区・学区レベルへ拡大をしているので、公衛協活動の財源として活用してください。

人間ドックとがん検診のすすめ

168センチで体重72キロ、軽度肥満であった。脂肪肝もあった。5年で体重を10キロ落し、以後標準体重を維持しているが、一度罹った糖尿病は治らない。日本人は糖尿病になりやすい。予備群の段階で発見し、生活改善をすれば罹らない。そのためには、40才くらいから人間ドックを受けることである。これで普通の生活習慣病は予防できる▼問題は癌である。癌は日本人2人に1人は一生に一度は罹り、3人に1人はこれで亡くなる。死亡原因の断然一位で、45才から5年ごとに倍増している。癌細胞を破壊する免疫力が、老化によって年々衰えるためだ。肉親が癌に罹った方と度癌に罹った方、多量重癌は、要注意である。癌にかかりやすい素質を受け継いでいる。癌は非常に多い病気なので、定期的に癌検診を受けるべきだ。症状がないこともままあるから、検診を定期的に受け、何か症状があれば、たとえ

で頂く。検診では異常なしとされても、早期発見が難しい部位の発癌により、検診から数カ月で手遅れというケースも聞かれるが、偶然癌が発見され助かった方も大勢おられる。癌検診による早期発見が大事である▼定期的な健診の受診と健康的な生活習慣の実践で、長生きして人生を楽しんで頂きたいものである。(元厚生省検疫所長・健康クリニック参事 鈴木忠明)



一般財団法人 ～みんなの生命(いのち)をまもりたい～

広島県環境保健協会

〒730-8631 広島市中区広瀬北町9番1号(広島県公衆衛生会館)

TEL:082(293)1511 [大代表] FAX:082(293)1520

基本理念

～みんなの生命(いのち)をまもりたい～

私たちは、健康づくりと住みよい環境づくりに取り組み、地域社会の発展に貢献します。

かんぽきょう

検索



平成26年度重点メニュー振り返り

環保協では、公衛協活動の支援策として「環境づくり・健康づくり活動メニュー」の提案を行っています。平成26年度に展開した「全県共通事業重点メニュー」の成果を紹介します。

全県共通事業重点メニューとは、市町公衛協単位だけでなく支部・地区学区公衛協で実践できるプログラムであり、積極的に地域の公衆衛生活動に取り入れていただきたい事業です。また、重点メニューには活動支援グッズがあり、この支援グッズは環境健康募金の環保協配分金の部を充てて作成しているため、これらを活用することで募金事業への理解も促しています。

「二万人のエコチェック事業」

実践率35・4%微増 戸建て小人数世帯が中心

県内約1万人の公衆衛生推進委員を対象に、家庭で消費されるエネルギーの削減運動を展開する事業で、平成22年度にスタートしました。

内容は、8月の検針日から9月の検針日までの約1カ月間、家庭で電

気の省エネに取り組んだ後、前年同月の使用量と比較しその効果を数値的に「見える化」するもの。実践率50%を目標に展開しています。また、多くの推進委員の実践を促すため、エコチェックカードは、広島県公衆衛生大会の「エコチェック事業おたのしみ抽選会」の抽選券として活用し、さまざまな景品が獲得できるしくみとしています。

衛協が事業に参加し、実践率35・4%で、前年比1・8%増加しました。また、公衛協関係者の特徴としては、戸建て住宅2・3人世帯が特に多いことが示されています。今後の省エネ活動を考える際のポイントとしています。

「広島発・瀬戸内海美化大作戦」

県内約10万5千人が事業に参加

瀬戸内海をキーワードに、次世代に住みよい環境を残すこと、継続して自然の恩恵を享受できる環境を維持することとを目的に、地域清掃・美化、水質改善・保全、里地里山づくりの3つ

のテーマの取り組みを支援するもので、平成23年度にスタートしました。

この事業では、活動場所ごとの活動記録を蓄積し、広く住民に公表すること、公衛協のPR

の取り組みを支援するもので、平成23年度にスタートしました。

「1万人の食チェック事業」

実践者の80%が1日20品目以上摂取

健康維持のために、公衆衛生推進委員自らが食生活の傾向を知り、健康づくりに繋げることをねらいとする事業で、平成23年度にスタートしました。

事業内容は、チェック期間を定め、食事で摂取する食品数を数えて、カードに記載するもので、実践率50%を目標としています。

平成26年度は、実践率30・2%で、前年度より0・9ポイント増加しました。実践者の1日あたりの平均食品摂取数は、1日24品目でした。1日に20品目以上摂っている人が全体の80%となり、食品数を多く摂るよう心掛けている人が多いことが明らかとなりました。

「公衛協発ウォーキング事業」

5公衛協で、新規取り組みスタート

「環境」と「健康」の視点を持ったウォーキング事業を展開することで、日常的な運動習慣に繋げると同時に、公衛協のPRを行い、健康づくり事業の拡充を目指す取り組みで、平成22年度にスタートしました。

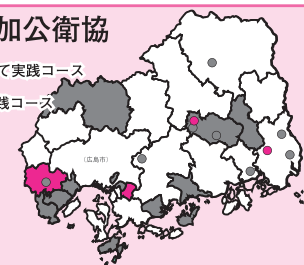
既存のウォーキングメニューを支援するコースと、新規に実施する活動を支援する2つのメニューがあり、環境点検や史跡、アドプト空間をコースに盛り込み、チェックポイントなどを準備することで、公衛協らしさを発揮するプログラムが展開されています。

平成26年度は、24の市町地区・学区公衛協が事業を実施し、うち5公衛協が初めて取り組みを行いました。

これまでの活動実績

事業参加公衛協

●はじめて実践コース
■継続実践コース



は、当協会HPの「地域活動」ページに報告を掲載しています。平成27年度も重点メニューはほぼ同様のプログラムで展開します。積極的に参加活用いただき、地域の環境・健康の向上、公衛協活動の活性化に役立てていただきたい。（地域活動支援センター）

平成27年度地区衛生組織活動資金募集(環境・健康募金)事業スタート

健康で暮らしやすいまちづくりのために 環境・健康募金の使われ方

地区衛生組織活動資金募集とは、「私たちの地域は私たちの手で」という思想のもと、地域ぐるみの公衛協活動を行うための原動力として活動資金を集めるものです。昭和35年2月、世界保健デーの4月7日を「健康感謝の日」と定めて以来、毎年実施され、今年で56回目を迎えます。集めた募金は、公衛協の環境保全や保健衛生活動を通じ、地域に還元されます。

募金は、円滑・公正に運営するため、地区衛生組織代表者で組織される募金委員会にいったん集約された後、各市町公衛協・環保協・事務費に配分されます。

公衛協に配分された募金は、ごみの減量化と分別排出の徹底・リサイクル活動の推進、道路や河川など生活空間の美化活動、脱温暖化普及啓発活動、環境啓発ポスター・標語コンクールなどの環境づくり事業や、生活習慣予防の推進、食育、ウォーキング、献血事業の促進などの健康づくり事業に係る財

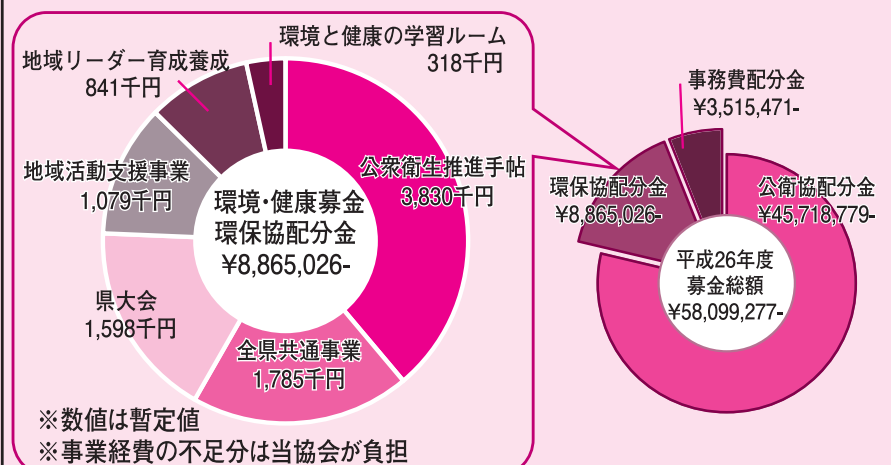
源などに充てられます。募金の使途は公衛協によって異なりますので、詳しくは各市町の公衛協事務局へお問い合わせください。

環保協配分金は、公衆衛生推進手帖や全県共通事業の「公衛協発・ひろしま美化大作戦」、「一万人のエコチェック事業」「一万人の食チェック事業」「公衛協発ウォーキング事業」の活動支援グッズとして、カードやマニュアル、看板やのぼり旗などの作製、または合同研修など公衆衛生推進委員の養成に係る各種研修、環境と健康の学習ルームの運営費用などに活用されています。

事務費配分金は、募金事業を展開するためのPR用ポスターやチラシ、募金回収袋の作成などに充てられます。

このように、地域のみならずお預かりした募金は、地域の公衆衛生活動のために使われ、コミュニティの「環境」と「健康」を守るために役立てられています。募金の趣旨をご理解いただき、引き続きご協力をお願いします。

平成26年度環境・健康募金環保協配分金使途内訳



※数値は暫定値
※事業経費の不足分は当協会が負担



IPCC子ども向け学習プログラムを実演。スライドや小道具を使いながら楽しい講義が展開された。

脱温暖化センターひろしまは、推進員や地域協議会がお互いの実践事例や課題・情報等を共有しあい、交流を深めるとともに、今後の

活動のあり方を一緒に考え、実践活動の環を広める目的で、2月10日に安芸区民文化センターで「脱温暖化推進員フォーラム2015」を開催。各地から推進員や地域協議会・公衛協関係者など100人が参集しました。

最初に、「地球温暖化対策の推進に関する法律」で定められている推進員および地域協議会、当センターの役割を再確認し、最新の情報を収集し、みんなに伝える、自分達の活動を広

「脱温暖化推進員フォーラム2015」を開催

IPCC第5次評価報告書を学ぶ 発表を通じて自分を確認

「脱温暖化センターひろしま」は、「啓発・広報活動」「情報発信」「地球温暖化対策地域協議会の支援」「地球温暖化防止活動推進員の養成・育成」などを行っています。

特に、県民一人ひとりの脱温暖化への取り組みを促進するため、「コミュニティを基盤にした、脱温暖化のまちづくりをめざし、その活動の核を担う」「組織II地域協議会」の支援と「人II推進員」の養成・育成を図ることで、センターと連携協働しながら脱温暖化を推進できる地域「コミュニティ」の体制を築いていくことに注力しています。

「脱温暖化センターひろしま」は、「啓発・広報活動」「情報発信」「地球温暖化対策地域協議会の支援」「地球温暖化防止活動推進員の養成・育成」などを行っています。

「脱温暖化センターひろしま」は、「啓発・広報活動」「情報発信」「地球温暖化対策地域協議会の支援」「地球温暖化防止活動推進員の養成・育成」などを行っています。



「意外と知らない自分を発見しよう」に取り組む参加者(上、下)

「脱温暖化センターひろしま」は、「啓発・広報活動」「情報発信」「地球温暖化対策地域協議会の支援」「地球温暖化防止活動推進員の養成・育成」などを行っています。

「脱温暖化センターひろしま」は、「啓発・広報活動」「情報発信」「地球温暖化対策地域協議会の支援」「地球温暖化防止活動推進員の養成・育成」などを行っています。

「脱温暖化センターひろしま」は、「啓発・広報活動」「情報発信」「地球温暖化対策地域協議会の支援」「地球温暖化防止活動推進員の養成・育成」などを行っています。

「脱温暖化センターひろしま」は、「啓発・広報活動」「情報発信」「地球温暖化対策地域協議会の支援」「地球温暖化防止活動推進員の養成・育成」などを行っています。

「脱温暖化センターひろしま」は、「啓発・広報活動」「情報発信」「地球温暖化対策地域協議会の支援」「地球温暖化防止活動推進員の養成・育成」などを行っています。

「脱温暖化センターひろしま」は、「啓発・広報活動」「情報発信」「地球温暖化対策地域協議会の支援」「地球温暖化防止活動推進員の養成・育成」などを行っています。

「脱温暖化センターひろしま」は、「啓発・広報活動」「情報発信」「地球温暖化対策地域協議会の支援」「地球温暖化防止活動推進員の養成・育成」などを行っています。

「脱温暖化センターひろしま」は、「啓発・広報活動」「情報発信」「地球温暖化対策地域協議会の支援」「地球温暖化防止活動推進員の養成・育成」などを行っています。

「脱温暖化センターひろしま」は、「啓発・広報活動」「情報発信」「地球温暖化対策地域協議会の支援」「地球温暖化防止活動推進員の養成・育成」などを行っています。

全公衛協で『組織力診断』を実施 結果を第2期中期経営計画に反映

平成の大合併から10周年を迎える市町が多くなっています。そこで、地域活動支援センターではこの10年の節目に、公衛協の現状(組織体制や活動、財源など)について再確認し、より活性化

「脱温暖化センターひろしま」は、「啓発・広報活動」「情報発信」「地球温暖化対策地域協議会の支援」「地球温暖化防止活動推進員の養成・育成」などを行っています。

「脱温暖化センターひろしま」は、「啓発・広報活動」「情報発信」「地球温暖化対策地域協議会の支援」「地球温暖化防止活動推進員の養成・育成」などを行っています。

「脱温暖化センターひろしま」は、「啓発・広報活動」「情報発信」「地球温暖化対策地域協議会の支援」「地球温暖化防止活動推進員の養成・育成」などを行っています。

「脱温暖化センターひろしま」は、「啓発・広報活動」「情報発信」「地球温暖化対策地域協議会の支援」「地球温暖化防止活動推進員の養成・育成」などを行っています。

「脱温暖化センターひろしま」は、「啓発・広報活動」「情報発信」「地球温暖化対策地域協議会の支援」「地球温暖化防止活動推進員の養成・育成」などを行っています。

平成14年度に実施した組織力診断



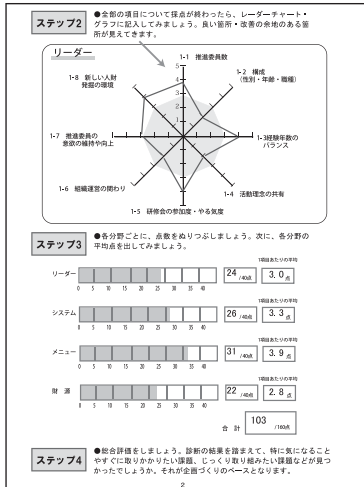
「脱温暖化センターひろしま」は、「啓発・広報活動」「情報発信」「地球温暖化対策地域協議会の支援」「地球温暖化防止活動推進員の養成・育成」などを行っています。

「脱温暖化センターひろしま」は、「啓発・広報活動」「情報発信」「地球温暖化対策地域協議会の支援」「地球温暖化防止活動推進員の養成・育成」などを行っています。

「脱温暖化センターひろしま」は、「啓発・広報活動」「情報発信」「地球温暖化対策地域協議会の支援」「地球温暖化防止活動推進員の養成・育成」などを行っています。

「脱温暖化センターひろしま」は、「啓発・広報活動」「情報発信」「地球温暖化対策地域協議会の支援」「地球温暖化防止活動推進員の養成・育成」などを行っています。

「脱温暖化センターひろしま」は、「啓発・広報活動」「情報発信」「地球温暖化対策地域協議会の支援」「地球温暖化防止活動推進員の養成・育成」などを行っています。



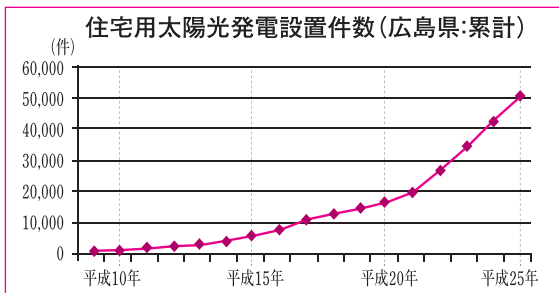
診断後にはレーダーチャートで得意不得意が分かる

新緑のまぶしい初夏。太陽の光がさんさんと降り注ぐ季節となりました。この太陽の光から電気を生み出す、それが太陽光発電です。皆さんのご自宅やご近所にも太陽光発電パネルを屋根に載せた家があるでしょう。広島県内の太

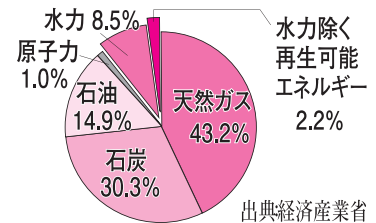
県内戸建て13軒に1軒が設置 再生エネルギーでエコライフ

広島県の
再生可能
エネルギー

① 普及が進む太陽光発電



日本の発電電力量の構成(平成25年度)



平成25年度、再生可

また、近年の状況をみると、平成25年度に新築された家の約3割に太陽光発電が設置されています。

もはや、新築の際に太陽光発電を設置するこ

太陽光発電は急激に増えてきました。平成25年度末までに広島県内に設置された住宅用の太陽光発電は約5万件。普及率は約8%で、戸建ての13軒に1軒は設置していることになりました。

再生可能エネルギーは、温室効果ガスである二酸化炭素をほとんど排出しないため、地球温暖化対策に有効なエネルギーとして、その普及が図られてきました。加えて、平成23年3月に発生した東日本大震災以降は、国のエネルギー政策や地域経済の発展にも寄与するローカルな資源としても期待が高まり、今後とも、さらなる普及拡大が望まれています。

今回から、太陽光発電を中心として、再生可能エネルギーの特徴や必要性、県の取り組みを6回シリーズで紹介していきます。

とは、珍しいことではありません。

しかし、太陽光発電は、自動車と同じくらい高額な商品であるにもかかわらず、その仕組みや留意点などが、十分に広く理解されているとはいえない状況です。

この連載を通じて、再生可能エネルギー、とりわけ太陽光発電に対する理解を深めていただき、できるだけ多くの皆さんに、再生可能エネルギーを活用したエコなライフスタイルを実践していただきたいと思います。

広島県では、地域の優位性を生かした再生可能エネルギーとして、太陽光発電、木質バイオマス発電、小水力発電を重点分野として、普及拡大を図っています。次回からは、普及の中心となる太陽光発電についてさらに詳しく紹介していきます。

(広島県環境政策課)



① 口腔保健の重要性

お口とからだの健康との関係は、さまざまな分野で注目されてきており、口腔保健の重要性は世界規模で高まると考えられます。

この連載では、歯周病と全身疾患のかかりから歯周病早期発見の重要性について、また、高齢者の口腔保健の重要性から全身と口腔の視点に立った口腔ケアについて紹介します。「口は健康のもと」とであるとご理解いただき、明るく口腔ケアに取り組んでいただけるような連載にしたいと思います。

「口は災いのもと」とは、不用意な発言を戒めることわざですが、口

腔保健に携わる人にとっては、これとは違う意味合いを想像することもあるのではないのでしょうか。循環器病患者の動脈硬化が起きている部分や、非アルコール性脂肪肝炎患者の肝生検材料から歯周病原菌が検出されたというような、口腔が災いのも

健康寿命の延伸を目指す

誤嚥性肺炎や入院日数の削減も

サンスター株式会社 医薬品医療機器事業戦略企画部 研究開発室 野添 幹雄

が進められています。先般2015年3月、世界会議2015健康

寿命延伸のための歯科医療・口腔保健が開催され、世界各国から最新の歯科医療・口腔保健の知見が集結しました。ここでは、これまでの研究を精査してまとめられた「健康長寿社会に寄与する歯科医療・口腔保健のエビデンス2015」(日本歯科医師会発行)が発表され、口腔ケアにより誤嚥性肺炎の発症が減少した事例、入院患者の口腔機能管理により在院日数が削減された事例などを通じて、口は健康のもととなるという理念を感じました。世界会議終了後には「東京宣言」が提唱され、健康寿命の延伸、健康格差の縮小、

命延伸に向けて、口腔保健の重要性は世界規模で高まると推察されます。



生活の質の向上を目指す政策の動向も重要ですが、身近なところから口腔保健の重要性を今一度思い起こしてみると、私事ですが20年以上前、祖母が「おじいちゃん歯を抜いてから具合が悪くて死んでしまった」と語ってくれました。これは単に孫に歯磨きを促すためだけではなく、定期的に歯科医院を受診しなさいと語りかけてくれたんだと思います。かかりつけ歯科医師と相談しながら、お口の健康を維持することが重要な時代になってきていると思います。

2月7日、「脱温暖化福山中央地域協議会」が発足し、27番目のTEAMが誕生しました。これを記念して、3月21日、69名の参加を得て、

「脱温暖化福山中央地域協議会」誕生

5つのプロジェクトを計画



⑬ 27番目のTEAM

「脱温暖化福山中央地域協議会」は、マイバッグ・マイ箸推進/自然エネルギー活用プロジェクト、アイドリグストップ運動/緑のカーテン運動プ

プロジェクト、地産地消推進/3R推進プロジェクト、廃食油の活用/ごみ減量作戦プロジェクト、環境学習の出前講座/環境家計簿記帳運動プロジェクトの5つのプロジェクト活動を計画しています。

これらの活動を通じて、地球温暖化に対する危機感や正しい認識、価値観を市民全体で共有し、緩和策や適応策の必要性和有効性を認知・浸透させて、ライフスタイルの変換や行動変容の促進に向けた情報発信や取り組みを進める予定です。



69人の関係者が集まり開催されたキックオフ大会

が参加しています。この中には、11名の地球温暖化防止活動推進員のほか、福山市主催の「ふくやま環境大学」卒業生8名も参加しています。設立に向けた取り組みは、福山市公衛協中央ブロックで平成26年4月からスタートし、準備委員会を立ち上げて協議を進め、公衆衛生推進委員へのアンケートや参加メンバーへの所属部会アンケートなどを経て設立に至りました。

脱温暖化センターひろしまは、今後も全県的な脱温暖化のまちづくりを目指し、未設置市町を中心にTEAM設立に向けた人材発掘を行うほか、既設TEAMの支援や連携・協働に力を入れていきます。(脱温暖化センターひろしま)

環境生活センター環境保全課は、環境影響評価、環境保全事業、生物保全事業、土壌汚染対策事業などの環境コンサルタント業務及び生物調査・分析業務を行っています。その中で地域の皆さんにとって

里地の保全で地域を活性化

～地域で守ろう 私たちの“ふるさと”～

環境生活センター
業務紹介(1)
環境保全課



地元で中学生と水路の生き物調査

身近な里地の生き物調査について紹介します。
春になると田植えが始まります。田植え後も、施肥、水管理、除草や害虫防除とたくさん作業を経て収穫を迎えます。それに合わせて田んぼで暮らす生き物も活動します。田んぼに産卵し、成長する力エールやアカトンボのなかま、水生昆虫、水路や田んぼで産卵し、成長するメダカやドジョウなど、たくさん生き物が米作りを中心とする農業と関わりながら暮らしています。

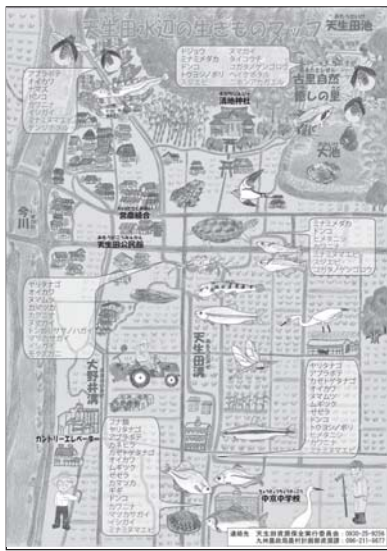
ところが近年、田んぼの生き物がすみになくなっていきます。生産効率を上げるために、水路のコンクリート化や地下埋設水はけのよい田んぼへの改良などが行われたことにより、田んぼや水路に水がない時期が生じたり、ほ場と水路の段差が大きくなり、生き物の行き来がしにくくなったため

す。
数が減ってきた里地の生き物を守ることは、その地域らしい風景を守ることであり、同時に日本人が抱くふるさとのイメージを守ることです。

環境保全課は、専門的な調査や地域の皆さんによる生物調査のお手伝いを行っています。その結果をもとに、大

な生き物を守り、他の生き物も増える対策として、農家や地域の皆さんで行える無理のない方法を提案しています。これらの取り組みにより、今各地の里地では人と生き物が共に暮らす、生き活きとした環境が取り戻されつつあります。

(環境生活センター)



普及啓発のために作成した水辺の生き物マップ
(出典：天生田水辺の生きものマップ／天生田資源保全実行委員会・九州農政局農村計画部資源課)

話題の健康づくり

アラカルト

⑥ コーヒーの力

食事の後にコーヒーの味と香りを楽しめる方は多いことと思います。そのコーヒーにダイエットや糖尿病が予防などの健康効果があることをご存知ですか。

コーヒーの脂肪燃焼効果には、カフェインとクロロゲン酸が主にかわっています。

み、香りのもとであるクロロゲン酸は、ポリフェノール的一种で、コーヒーには赤ワインと同程度含まれています。クロロゲン酸はエネルギーをつくるミト

コンドリアへの脂肪酸の取り込みを促進し、脂肪を燃ややすくします。皆さんも脂肪燃焼効果があるトクホ(特定保健用食品)のコーヒー飲料のCMを立ちます。実際、国立が

ゲン酸には、血糖値の上昇を抑制する作用やインスリンという糖を処理するホルモンの効果をよくする効果もあり、糖尿病の予防に役立ちます。

トだけでなくさまざまな病気の予防効果があります。ただし、とりすぎは禁物です。健康な方でコーヒーが大好きであれば、1日4杯までが適切な量でしょう。基本は砂糖抜きで、コーヒーフレッシュは控えめに。

決してコーヒーを飲めば糖尿病が治るわけではなく、コーヒーの効用を知って、食後のコーヒータイムを楽しんでみませんか。

(健康増進課
管理栄養士 早川 優子)

情報紙「環境と健康」アンケートの結果(抜粋)

～食品に関する危機管理と有害物質に高い関心～

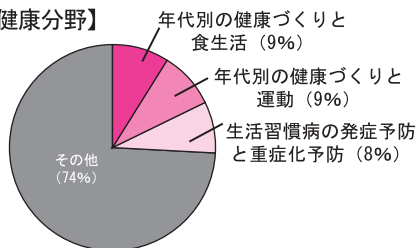
情報紙「環境と健康」では、公衛協の実践活動に関わる事業の広報や実績などの紹介、「環境」と「健康」に関わる情報を提供しています。

昨年度、紙面の充実を図るため、読者アンケートを実施しました。

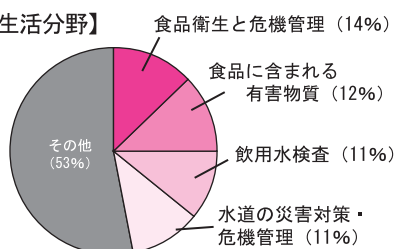
アンケートは、平成26年9月と平成27年1月の2回実施し、「紙面に関すること」「読者の興味・関心に関すること」「意見、要望」について調査したので、その概要を報告します。

◆◆ 分野別 興味・関心事項 ◆◆

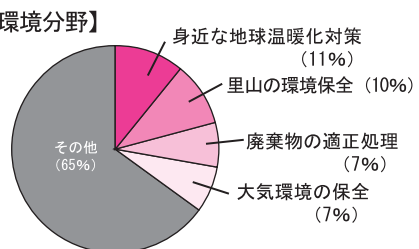
【健康分野】



【生活分野】



【環境分野】



「興味・関心を持った記事」では、食生活、献血、健康づくりなどの健康分野に関する記事が最も多く、次いで地球温暖化に関する記事が挙げられました。また、「取り上げてほしい記事」は、健康分野では「年代別の健康づくりと食生活」、環境分野では「身近な地球温暖化対策」、生活分野では「食品衛生と危機管理」が最も多く挙げられました。

「その他の意見・要望」では、「字体を大きくしてほしい」「カラー(赤)が多すぎる」「(紙面スペースについて)少し全体が詰め込みすぎ」「文章がやや堅くて分りにくい」「市町公衛協の取り組み事例をもっと紹介してほしい」などの意見をいただきました。

今回いただいた貴重な意見は、今後の情報紙作成に反映させたいと考えています。当面、以下のことに留意して紙面づくりに努めます。

①編集に関すること

- ・図や写真などを詰め込み過ぎないようにして読みやすくする。
- ・配色に注意し、カラーが多過ぎないようにする。

②記事に関すること

- ・健康分野、環境分野、生活分野の記事をバランスよく掲載する。
- ・分かりやすい表現を用い、専門用語には注釈を付ける。
- ・公衛協活動に関する記事をもっと増やす。

今後も引き続き読者アンケートを実施して、情報紙を充実していきます。

平成27年度専門研修スケジュール

月	日	事業名(開催場所)
4	22日(水)	公衛協事務担当者会議①(広島県公衆衛生会館)
5	11日(月) 12日(火)	専門研修「基礎研修の開き方コース」 (11日:広島県公衆衛生会館・12日:環保協東部支所)
	25日(月)	中堅推進委員育成事業指定研修 「ごみ減量・3Rコース」(広島県公衆衛生会館)
6	2日(火) 4日(木)	専門研修「野外活動安全管理コース」 (2日:呉市安浦町、4日:三原市本郷町)
	18日(木)	代表者会議定例会・募金委員会①(広島県公衆衛生会館)
7	9日(木)~10日(金)	第54回環境保健夏季大学(グリーンピアせとうち)
	24日(金)	【脱温】脱温暖化推進員新規養成研修①(坂町)
	27日(月) 30日(木)	専門研修「広報・ツールづくりコース」 (27日:広島県公衆衛生会館、30日:環保協東部支所)
8	7日(金)	中堅推進委員育成事業指定研修 「広島県がん検診推進員養成研修」 「食育コース」(広島県公衆衛生会館)
	20日(木) 21日(金)	代表者会議専門部会①(環境・健康) (組織)
	25日(火)	【脱温】脱温暖化推進員新規養成研修②(坂町)
9	30日(水)	公衛協事務担当者会議②(広島県公衆衛生会館)
12	3日(木) 4日(金)	代表者会議専門部会②(環境・健康) (組織)
	10日(木)	第56回広島県公衆衛生大会(坂町)
	11日(金)	【脱温】脱温暖化推進員新規養成研修③(坂町)
1	28日(水)	代表者会議定例会・募金委員会②(広島県公衆衛生会館)
	14日(木)~15日(金) 16日(土)~17日(日)	専門研修「企画づくりコース」 (14~15日:西部、16~17日:東部)
2	10日(水)	【脱温】脱温暖化推進員フォーラム2016
3	16日(水) 17日(木) 18日(金)	ブロック会議(広島県公衆衛生会館) (環保協東部支所) (北部エリア)

*日程および開催場所は、変更する場合があります。

●基礎研修の開き方コース

西部会場: 開催日 5月11日(月)10:00~16:00
開催場所 広島県公衆衛生会館
定員 20人
申込締切り 5月7日

東部会場: 開催日 5月12日(火)10:00~16:00
開催場所 環保協東部支所
定員 20人
申込締切り 5月7日

●野外活動安全管理コース

海辺会場: 開催日 6月2日(火)10:00~15:00
開催場所 呉市安浦まちづくりセンター
定員 30人
申込締切り 5月26日

水辺会場: 開催日 6月4日(木)10:00~15:00
開催場所 三原市舟木コミュニティセンター
定員 30人
申込締切り 5月28日

平成27年度専門研修開催

公衛協活動の活性化にむけて

環保協は、公衛協活動の支援の一環として、環境づくり・健康づくり活動メニューの提案や推進委員の養成・育成を図る各種研修会の企画・運営を行っています。



「専門研修」は、公衆衛生推進委員の力量形成および専門的な知識・技術の習得をねらいとしています。今年度は「基礎研修の開き方コース」「野外活動安全管理コース」「広報ツールづくりコース」「企画づくりコース」の4コースを、東部・西部会場で開催します。今回は、



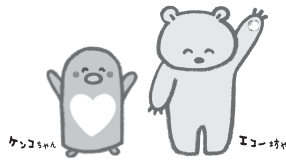
5月、6月に開催する研修を紹介します。「基礎研修の開き方コース」は、各地域で独自に基礎研修が開催できるよう、実習を通して研修の進め方のシナリオづくりを行います。基礎研修とは、公衆衛生推進委員の任務や活動の進め方、環境・健康募金や各市町公衛協で掲げた事業などを理解するための研修で、推進委員に公衛協に関する情報を伝える手法を学びます。

「野外活動安全管理コース」は、地域の自然環境を活かした学習活動を、安全・安心で継続して展開できるように安全管理に着目した研修を行います。安全管理・リスク管理を中心にプログラムを準備しており、企画・準備・実施・まとめと段階に応じたポイントを確認していきます。

5月度、6月度 専門研修のご案内

実践を行う際の基礎的な知識・技術を専門的に習得できるよう、工夫しています。この機会にぜひ本研修に参加して、公衛協活動の活性化に役立ててください。
(地域活動支援センター)

平成26年度 地区衛生組織活動資金募集



通称

『環境・健康募金』

環境・健康募金(旧 健康感謝募金)は、昭和35年から実施し、平成26年度で55回目を迎えました。集まった募金は、募金委員会によって適正に配分され、各市町公衛協の活動資金として地域社会に役立てられています。

環境・健康募金
総額(円)



58,099,277

市町名	募金額(円)	達成率(%)
呉市	8,139,470	145.3
府中町	1,523,700	138.5
海田町	2,463,345	398.1
熊野町	1,419,760	271.9
坂町	351,966	123.0
江田島市	1,972,950	301.9
竹原市	1,755,800	272.8
大崎上島町	361,500	164.4
大竹市	2,586,750	404.7
廿日市市	3,341,060	211.1
廿日市市佐伯	443,625	181.7
廿日市市吉和	63,500	332.5
廿日市市大野	2,494,500	429.2
廿日市市宮島	208,600	456.0

市町名	募金額(円)	達成率(%)
安芸太田町	741,550	443.1
北広島町	1,129,600	270.0
安芸高田市	2,164,500	328.6
東広島市	4,316,516	110.0
三原市	1,813,185	82.9
世羅町	956,260	277.4
尾道市	4,602,000	142.4
福山市	8,851,885	89.4
府中市	1,119,802	127.7
神石高原町	345,292	166.2
三次市	2,283,082	191.9
庄原市	2,572,730	322.0
その他	76,349	—
合計	58,099,277	158.5

Q. 環境・健康募金と公衛協、環保協の関係は?

A. 市町公衛協が活動実践のため募金を行い、公衛協の代表者で組織する募金委員会で円滑公正に運営されています。この委員会の事務局を環保協が行っています。

公衛協

公衆衛生推進協議会の略。「環境」と「健康」をコミュニティ(地域社会)で守るために組織された任意団体で、県内の市町に組織されています。

環保協

一般財団法人広島県環境保健協会の略。「コミュニティにおける公衆衛生、環境保全の向上」を使命に、公衛協の活動を支援しています。

市町別一覧表(平成27年3月末現在)

※この表は、平成27年3月末までに市町公衛協事務局から募金委員会に振込みのあった実績額を示しています。